



発行所 社会 宗像 大像 宗像 電話 0940-62-1311(代) 定価 一年送料共 1000円

第四十六回 文化財防火デー

— 貴重な宝を伝承するために —

文化財防火デーの一月二十六日、宗像大社自衛消防団(五十名)、宗像地区消防本部(十四名)、玄海町消防団第一分団・第四分団(二十五名)との合同防火訓練が行われた。今年も八年前より宗像地区消防本部との合同訓練となり、梯子車・化学車・工作車・ポンプ車・タンク車等の消防車両七台が参加する大規模な訓練となった。

当社の防火施設は、昭和四十六年の昭和火災時、強化され、その基本構置。避雷設備は、本殿・拝殿を中心とし、各種の避雷針を設置し、落雷による災害を防ぐ。また、防火設備の充実として、防火栓の設置、防火用水の確保として、地下タンク(三百トン)設置。避雷設備は、本殿・拝殿を中心とし、各種の避雷針を設置し、落雷による災害を防ぐ。また、防火設備の充実として、防火栓の設置、防火用水の確保として、地下タンク(三百トン)設置。



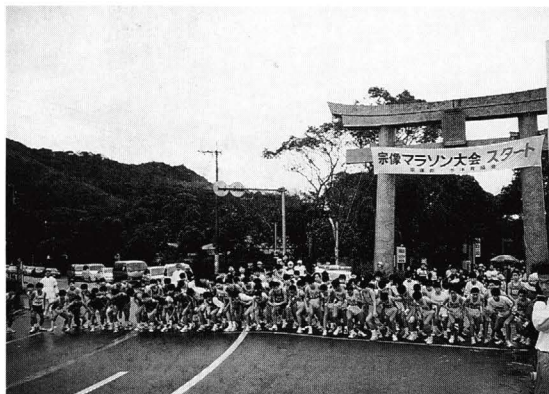
防火設備を扱うのは人であり、設備を過信してはならないとの意識のもと、毎年全職員が参加して防火訓練を行ってきた。文化財防火デーは、昭和二十四年一月二十六日、失火により貴重な国民的財産である法隆寺金堂壁画を焼失したことから、文化財保護と防火管理体制の意識を高めるため設けられたもので、この日を中心に全国で文化財を火災から守ると、防火訓練が行われている。当日は小雪の舞う厳しい寒さとなる中、午前十時五十分、本殿裏の森より出火。国の重要文化財である本殿・拝殿に火勢が迫るとの想定で発煙筒が焚かれ、炎に見立てた赤い旗が立てられた。火災報知ベルとも宗像大社自衛消防団は、神島団長の指令を受け現場へ急行。ただちに初期消火として巫女が神所よりバケツリレーで消火にあたり、施設消火班の神職・管理員は境内の屋外消火栓・地下式消火栓を使い、また、可搬式消火ポンプ班が心字池からホースをつなぎ放水。数分後玄海町消防第一分団が駆けつけ一斉放水し無事鎮火となった。

今年で四十三回目となる恒例の宗像マラソン大会(主催)宗像市・郡体育協会、西日本新聞社、後援)宗像大社、宗像地区教育事務連絡協議会、玄海町観光協会、玄海町体育協会)が一月二十三日(日)に開催され、約一千名のランナーが新春の宗像路で健闘を競った。この大会は、地方マラソン大会の草創的存在であるばかりでなく、新人ランナーの登龍門としても有名である。距離は、10km・5km・3km 男子一般・学生、同高、同中学生、女子一般、同高、同中学生男子の部

- 一位 江口 徹(城山中) 9分09秒
- 二位 中屋 義行(城山中) 9分16秒
- 三位 福城 大佑(新宮中) 9分20秒
- ※中学生女子の部
 - 一位 立石恵里華(城山中) 10分10秒
 - 二位 沖田 弥生(城山中) 10分41秒
 - 三位 佐藤千恵(篠栗中) 10分59秒
- ※高校生男子の部
 - 一位 坂口 哲男(修猷館) 15分11秒
 - 二位 畑邊 恵浩(九国大附属) 15分12秒
 - 三位 内野 翔(表松農高) 15分26秒
 - ※一般・学生男子の部
 - 一位 大久保裕治(第一精工) 16分03秒
 - 二位 一安晋太郎(福教大) 16分12秒
 - 三位 永田 武史(新藤農高) 16分18秒
 - ※一般・学生女子の部
 - 一位 相良 実沙(宗像高) 18分01秒
 - 二位 吉村 美紀(宗像高) 18分30秒
 - 三位 小林 佳代(相屋高) 18分41秒

第四十三回 宗像マラソン大会

宗像マラソン大会 スタート



「日本の息吹」二月号の「世界を救う日本文明」に、脚本家の林秀彦氏が、大変わかりやすく日本文化と白人文明の違いを、自分の体験を通して、文化、思想などの根源を指摘しながら、白人主導文明の「現実」と「本質」について記している。林秀彦氏は昭和九年東京生れの六十余年に亘る人生体験は国際的である。ドイツのザール大学、フランスのモンペリエ大学に学び、しかも専攻は哲学で、コチコチの哲人かと思えば、講道館柔道師範として現地指導を行ひ、卒業後帰国して松山善一氏に師事、テレビ・映画脚本家として活躍、昭和六三年にはふたたび、日本を飛びだしオーストラリアに移住、その間に著書「ジャパン、ザ・ニューフェイス」―日本を捨てて、日本を知った―等ユニークな文化論を発表するなど国際的に活躍しておられる脚本家である。この林氏が大病を患い、入院され最初の誤診に始まる手術後の病院、医師、看護婦、さらには社会組織から白人物質文明の中に於ける、責任の取り方、考え方、処理のし方を学ぶべく、記されている。オーストラリアの医療制度は世界的にも優れ、特に健康保険システムなど日本の比ではない。国家独立二百年の歴史は、白人文明のエキスを内容を持つている。その優れた医療システムに、人間性が関与する要素が介在したとたん、一切の先進文明システムの内実と価値は瓦解した、今日日本文化の「心」について再考すべき時である。と書いている。

強風にあおられて折願殿に延焼拡大したとの想定で引き続き訓練が行われ、一一九番通報で宗像地区消防本部の梯子車・ポンプ車等の消防車両五台が赤色灯を点灯させサイレンを鳴らした。ばされ銅板葺きの大屋根に放水をはじめた。第四分団もホースの延長・中継作業を素早くこなし放水し、本番さながらの消火活動が繰り広げられた。見学していた関係者一同、また多数の

御 札
正月祭進行に際しましては宗像警察署、玄海町消防団を始め、各関係諸官庁の御指導と地元氏子各位の御協力により、祭典を始め、諸行事を無事盛大裡に肅行することが出来ました。ここに紙面をかり、謹んで御礼申し上げますと共に、皆様方の益々の御繁栄を心より祈念申し上げます。
平成十二年二月吉日
宗像大社 社務所
各位御一同様



からつぎつぎと折願殿前第一駐車場に到着した。各分隊はそれぞれは配置につき、まず梯子車の固定作業がきびきびとした動作で行われ、はしが折願殿大屋根の高さまで延ばされ銅板葺きの大屋根に放水をはじめた。第四分団もホースの延長・中継作業を素早くこなし放水し、本番さながらの消火活動が繰り広げられた。見学していた関係者一同、また多数の



「余滴」
「日本の息吹」二月号の「世界を救う日本文明」に、脚本家の林秀彦氏が、大変わかりやすく日本文化と白人文明の違いを、自分の体験を通して、文化、思想などの根源を指摘しながら、白人主導文明の「現実」と「本質」について記している。林秀彦氏は昭和九年東京生れの六十余年に亘る人生体験は国際的である。ドイツのザール大学、フランスのモンペリエ大学に学び、しかも専攻は哲学で、コチコチの哲人かと思えば、講道館柔道師範として現地指導を行ひ、卒業後帰国して松山善一氏に師事、テレビ・映画脚本家として活躍、昭和六三年にはふたたび、日本を飛びだしオーストラリアに移住、その間に著書「ジャパン、ザ・ニューフェイス」―日本を捨てて、日本を知った―等ユニークな文化論を発表するなど国際的に活躍しておられる脚本家である。この林氏が大病を患い、入院され最初の誤診に始まる手術後の病院、医師、看護婦、さらには社会組織から白人物質文明の中に於ける、責任の取り方、考え方、処理のし方を学ぶべく、記されている。オーストラリアの医療制度は世界的にも優れ、特に健康保険システムなど日本の比ではない。国家独立二百年の歴史は、白人文明のエキスを内容を持つている。その優れた医療システムに、人間性が関与する要素が介在したとたん、一切の先進文明システムの内実と価値は瓦解した、今日日本文化の「心」について再考すべき時である。と書いている。

神具・装束 結飾式場用品 株式会社 井筒
福岡店 福岡市博多区東公園一三二(0812)0045
電話(092)651-1945(六番)
本店 京都市下京区神小路六条北入(0600)833
電話(075)341-1334(代)一三番
電話(075)341-1334(一三番)

木組の家 総合建設業 株式会社 弘江組
事務所 8106 福岡県宗像市大字福元(094)215
電話(094)311-5577

筑前大島の正月



午前零時、浄土の中に庭燎の赤い炎が輝き、境内に大鼓の音が響き神門が開かれ、平成一二年の暮が明けた。開門と同時に、待ちかねていた村内氏子を始め正月

献米奉告祭齋行

新春の一月十三日午前十時より恒例の献米奉告祭が厳肅裡に齋行された。

この祭りは、宗像市・郡内の氏子の皆様より御奉納頂いた新穀を御神前にお供え申し上げ、豊かなみのりに感謝し、更に本年の五穀豊穰、無病息災、家内安全を祈念する祭典である。当日は霜の雨模様となつたが、宗像大社氏子会会長を始め、多くの氏子、崇敬者が参列し、祭典開始。氏子の皆様より御奉納頂いた新穀がお供えされた御神前にて、皇室の安泰と氏子・崇敬者の幸福を祈念

する祝詞奉読に続き、氏子奉幣使より神恩感謝の奉幣詞が奉読された。この祭典でも、春・秋の大祭と同様に氏子会より代表(本年は宗像市立石後郎武丸住、氏)が奉幣使として奉仕されている。



宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

祭典終了後、舞殿にて氏子会永年勤続者の表彰式が行われ、永年に亘り当大社の諸行事に奉仕頂いた大島村・河野卓造氏、福岡町・八波高男氏の二名に宮司より感謝状が贈呈された。

新春の二月二十日、出光興産(株)中部支店、愛知製油所、中部光運会の年頭参拝に併せて同会の前田源吾氏が参拝された。

新春の二月二十日、出光興産(株)中部支店、愛知製油所、中部光運会の年頭参拝に併せて同会の前田源吾氏が参拝された。氏子は、若くして幾度か召の後、運輸業界に身を投じられ、愛知陸運(株)社長に就任、高度成長期に自らを飛躍的に成長させた。また、(社)愛知県トラック協会会長に推され九期十八年間重責

を果し、次いで(社)全国トラック協会副会長としても斯界に貢献された。後に本年の功労が認められ、愛知運輸(株)の現職に就任された。前田源吾氏の今後の一層の御活躍をお祈り申し上げます。

更に、水墨画にも才を発揮し展覧会にも入選する程の力量を持つ。昨年には母校の富士松小学校に自筆の岩ヶ池を題材にした水墨画を寄贈するなど郷土愛も深い。

前田源吾氏の今後一層の御活躍をお祈り申し上げます。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

その後、真会場の清明殿では、和やかな雰囲気の中恒例の「鏡開き」が催された。

奉納頂いた献米は、毎朝齋行される「日供祭」の神饌として御神前にお供え申し上げ、併せて皆様方の弥栄を御祈念申し上げます。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

「健こう」といふこともあり、参加者も御嶽山頂で餅撒きをして、参加者一同にふるまった。二日は、大島を離れた若人が里帰りしている時にと、県下で最初の成人式が行われ、小・中学校当時の仲間と久しぶりに再会した。

午前十一時、新成人八名(男子五名、女子三名)、杉田村長、本田議長を始め父兄等関係者が参列する中、成人祭を齋行、大人の仲間入り祝った。また成人祭に前後して、三才厄年・晴厄、四十一才厄年・晴厄、四十四才厄年の各祈願祭も齋行された。

三日午前十一時、奉賛会役員、漁業関係多数参列の役員、元始祭並大漁祈願祭を太田宮司により齋行された。

一月十五日(土) 宗像大社献詠短歌会、二輪車安全運転普及協会折尾支部、西久大運輸倉庫(株)極東フーズコーポレーション、前田観光バス参拝団、上嘉穂交通安全協会、上嘉穂安全運転管理連絡協議会、上嘉穂警察署・山田市交通安全協会

一月十六日(日) JR九州南福岡車区飯塚地区交通安全協議会、宗像サンデー、トヨタ自動車九州(株)、出光興産(株)関西支店、関西光運会

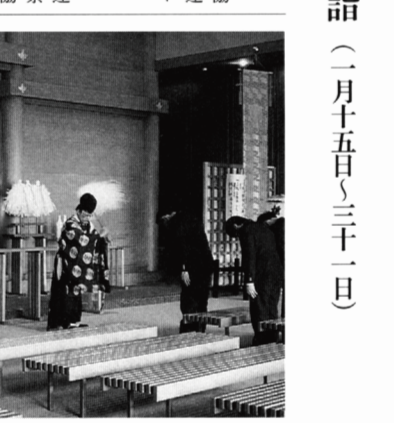
一月十七日(火) 一月十八日(水) 一月十九日(木) 日鐵運輸(株)日連手、ビス・日鐵運輸情報システム(株)、新日本鉄工(株)

一月二十日(木) 北東興産(株)海運支店、北海道光運会、出光北海運道情報交流協会の出光興産(株)情報システム部、日章興産(株)、東京海上火災保険(株)、宗像海運(株)、宗像海運クループ各社

一月二十一日(金) 一月二十二日(土) 一月二十三日(日) 一月二十四日(月) 一月二十五日(火) 一月二十六日(水) 一月二十七日(木) 一月二十八日(金) 一月二十九日(土) 二月一日(月)



初詣 (二月十五日〜三十一日)



奉納刀の伝承等を調べて行く過程で、興味をそそられた事や、紙面の都合で書き足らなかつた事について述べて見た。

宗像神社宗像刀鍛錬所(後)日本刀鍛錬宗像道場は、官幣大社である宗像・香椎・宮崎三社に御神刀を奉納した後は、御神刀製作の余鉄を以て鍛えた「宗像刀」を一般同好者に頒布して、その収益で道場の運営を計って行く事になった。

奉納刀余話 (二)

仙 寿

付けた昭和九年の社務日誌に、名譽主典年俸 百四十円、主典月給 十七円、雇月給 十七円、給仕月給 十円とある所から見れば、太刀一口二百円という値段は、かなりの高価格である事がわかる。

又新聞は桜井正幸刀匠の事を次の様に紹介している。「氏は故有橋川宮殿下の向う樋を承り、現代の刀匠中、断然他を圧する桜井正幸翁の甥にして、且つ唯一の高弟にして本年四十七才未だ娶らず夙に早稲田大学理工科を出て、彫金清寺二代東龍斎寿海に学んだ。今日まで資産十万余円を悉く日本刀鍛錬のため費やし、士より刀匠となり、三十五年間一日の如く刀剣を磨いている。

これを認めても宗像道場の主は、桜井正幸ではなく正幸であった事が何れも又、宗像道場の最大の後援者である岩崎鶴亀氏は遠賀郡中関町の鍛冶家を経営する舞鶴自動車社を創設する事特筆すべき事は大社の諸行事に欠かせない清明殿は、氏の淨財一万四千五百円の奉納金に依り、昭和十一年十月十五日完成した事が残されている鋼製の碑文から判明した。

宗像大社氏子会より奉幣使として奉仕されている。

出光店主室教育 第五十九期 宗像研修報告

出光石油化学樹脂研究所 杉田泰久

私にとっての宗像研修は、現代の日本人が忘れてかけている大切なものを、改めて考える機会を与えてくれました。やらなければならない、仕事に追われ日常に流されがちな私達に、「そのような生き方ではないのか」と問いかけてもらったような気がしました。

研修では、朝拝と鎮魂の時間に板間で正座する機会がありました。正座では大変苦痛を伴うものですが、大変有意義なものでした。例えば、苦痛に耐えられなくなっている自分に気付いたとき、も、かかっていた物質の世界に浸かってしまい、精神的に弱くなっていく自分が見えました。また、世の中には、自分の何倍もの苦痛に耐えて病氣と闘っている方もおられるのだと考へたりもしました。

また、ある時は、自分の生き方や家族への接し方について考へました。私は、この時間とおして、自分を冷静に見直し反省すること、言い換えれば、内観することの大切さに気が付きました。

また、清掃においても、清掃は境内をきれいにするだけでなく、心をきれいにすることであると実感しました。境内を掃いた後、やがては落葉で元の状態になってしまっているのが、自分の心は純粋で磨かれたと感じました。物質の世界ではプラスチックやマイナでゼロと成ることもありますが、精神の世界ではプラスとなることがあるのだと思っていました。

私は、この研修において、

古来から日本人が大切にしてきた精神の世界や心の世界というものが大切になってきました。そして、日常に翻弄され、物質的な面のみを重視しがちな中で、精神的な面を如何に磨いていくかが重要であると思えました。

これから再び日常の世界に戻っていくわけですが、意図的に鎮魂の時間を設け、豊にするよう努力していきたいと思えます。

最後に、研修において、真心で接し指導して頂きました宗像大社の皆様へ感謝致します。有り難うございました。

出光興産(株) 潤滑油部潤滑油海外課 阿部 徹

「ドッグイヤー」「グロウバルスタンダード」といった言葉に代表される通り世の中の変化のスピードは年々早まっています。ともするとこのような変化に感傷を覚えている日本人は、本来持っている日本人の心と言ったものを失いがちです。犯罪の低年齢化や凶悪化は大人達の社会の問題点を子供達という鏡が映している。過ぎないのではないのでしょうか。日本人が本来持ち続けてきた「和」や「無我無私」の精神或いは「真心」といったものを取り戻さない、やがて日本は米国のように徹底した個人主義の名の下で、自分自身を守る為他人を傷つける武器を携帯するようになる恐ろしい社会に変化してしまうのではないかと危惧されます。

出光興産(株) 千葉製油所製油一課 小野 政廣

宗像大社では神職の方をはじめ、多くの方から貴重な経験をさせていいただきました。高宮での鎮魂、また振り子に間の中で静けさを体験しました。時々、木の葉の落ちる音や、小さな虫の鳴く声が聞こえて来て、木の葉の落ちる音や、虫の鳴く声がこんなに大きく聞こえることに初めて気が付きました。

出光興産(株) 海外原部油課 鶴田 和彦

わずか五日間の研修ではありましたが、宗像大社の皆様のおかげで、貴重な体験をさせて頂くことができました。

最も印象に残っていることは、「非日常」の大切さを実感できたことです。本殿・高宮祭場での鎮魂は、日常生活で「動」と「音」に囲まれている私にとって「非日常」そのものでした。特に何かを悟るわけではありませんが、宗教的な境地に至るものでもありません。直に自分を見つめることができました。

青年会議所理事長挨拶 (宗像青年会議所 第二十六代理事長 野田 健次)

生活の中でまず行わないこと、私達の生活の中に溶け込んでいないもので、特別なものでないことがよく分りました。このような日本の伝統と誇りを守り続けている人々がいる事に感謝すると共に、私達も宗像研修で学んだ事を日本人の誇りとして、自信を持って守り伝えて行きたいと思えます。

現在、日本では、二〇〇〇年という新たな千年紀の年を迎え、経済が、そして環境が、様々な問題を抱え、一朝一夕では解決できない状態となり、新たな動きが必要とするところまで来ています。約四十六億年前に地球が誕生し、約三十八億年前に人類の生命保持環境システムが創造されました。以来地球と生物との共生が続いてきました。

宗像青年会議所 理事 野田 健次

一人住む友より居しし宅配 便若狭の雪を蟹は抱きて (評) 若狭地方ではずいぶん雪が積もり、雪を抱いて居た蟹は新鮮そのもので、一人住むの友の心遣いと共にその夜の友は蟹のうまさを感じたのである。越前の青い冬の海が見えるようである。

第四六四回 宗像大社歌会詠草 大野 展 男 選

光岡 古森テリ子 二筋の飛行機雲立ち一筋は龍の昇れるごとくに見ゆる (評) 冬晴れの空の二筋の飛行機雲の一つが風に崩れて龍のようだと詠む。二つの飛行機雲には時間的ずれがあるのだから、そこには空を見ている作者の孤独感のようなものが感じられる。

吉留 高山 信子 早川翁陶像の前ヒラカンサは真心のごとく赤く色づく (評) 冬晴れの温さを著へ置かんとて布団干しゆく妻を手傳ふ

福間 中村 勇 一人来て公民館の掃除する黒板に薄く介護の二文字

光岡 河村 久光 冬は北の国よりくるものと思つてをればテレビも告ぐる

光岡 森田富佐子 白鷺の夕餉のメニュー何ならん食みては首上ささうまそうに

八幡西 有吉 陽子 遠賀川潮満ちれば河口より水清まりて鮭のもどり来る

武丸 中村さつき 杵打ち餅餅搗く人ら採む吾ら田舎に住みし若き日頭ち來

光岡 竹浦 葛明 風花の舞い散る朝に群れ雀田の面に降りしが又飛び立ちぬ



宗像大社研修生と職員の写真

宗像大社歌会 俳句作品集 四三九

福間 森 清
二日はやセーターを手に散
歩女

自由ヶ丘 細川 柳子
窓越しの光なつかし春さむ
し

日里 花田 一 枝
明けそめし森深くと初射云

東郷 吉武 湧泉
相寄りて軒にふくる寒雀

東郷 中野 きみ
湯の里に女ばかりの年忘れ

東郷 吉田 杏子
恵まれし小春日うれし姉妹
展

東郷 三浦美千代
菱の花咲く堀割の故郷を恋
ふ

東郷 木原 房子
千両の朱実に屋根の雪しづ
る



(続) 淡の寄物

143

いし いた だし

翌朝八時にはホテルを出
発。別天武王城跡着。別
天武后は六四一七〇五年
唐の高宗の皇后、六九〇年
薨位につく。国を周と号し



始皇帝陵を望む

が石積みであるのに対し
レンガで造られている。墓
室には壁画を描いたものも
あり豪華である。死後の生
活を想定して墓内には生活
用具も入れられていた。

とレズン降り、少しつ
とおしい。雑踏のなを私
達の乗った小型バスは走り
抜ける。樓門大雁塔が
夕食のためすぐに飯店へ。
九月十四日八時に出発。
まずは華清池へ、唐代玄宗
皇帝が華清宮を建て、楊貴
妃との日々を送ったところ
である。ここも中国各地か
らの見学者や各国の観光客
でいっぱいである。

この場所は一九三六年、
静養中の蒋介石が張學良が
監禁した西安事件が起こっ
たところで、驛山腹には
蒋介石が事件の際身をかく
すまがら「捉蒋亭」と
名づけられていた。

そこ東三キロのこ
ろにある始皇帝陵へ、ザク
口畑の続く後方に始皇帝陵
が見える。陵は四八五×五
一五メートルの方形で、高
さ約五〇メートルほど、内
苑の垣があり、そして外側
に外苑の垣があった、それ
を含める南北二七二メー
トル、東西九七四メートル
という広大な墓域である。

武人達は等身よりも少し
大きく、一人一人の表情は
生き生きとして写実的で本
物の武器類をたまたま見て
いた。

バスを通るそばには名物
のザクロ売りの列が並んで
いた。
一〇時に兵馬俑博物館に
着く。一九七四年春、陵の
東方一・五キロメートル、
どのところでも人民公社の井
戸掘り作業中に偶然発見さ
れたもので、世界中がこの
大発見に驚いた。

この旅は中国博物館巡り
であるから昼食後も見学者
は博物館へ。
西安市街から東へ約六
キロメートルの低地地に
ある半坡博物館へ。遺跡は中
国初期農耕文化の村落で、
仰韶文化後期で約五〇〇〇
年は前である。仰韶文化
は河南省にある新石器時
代の集落遺跡で、一九二二
年、スエーデン人のアンタ
ンが発見し、土器は彩陶
灰陶、黒陶のすぐれた土器
や各種石器、骨角器あり、
既に農耕も行われていた。
その仰韶時代の遺跡である。

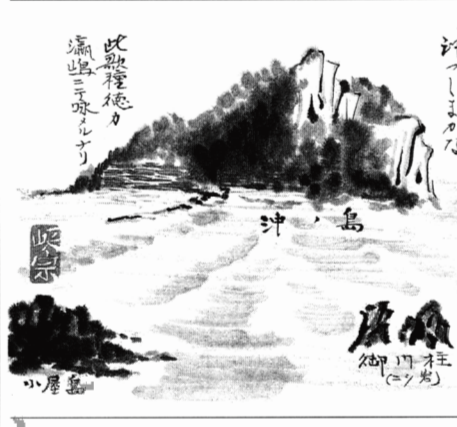
青柳種信著 瀛津島防人日記 (下巻ノ十六)

かくて、かへりこまう
しにて、家にかへらずし
て、直に国の殿にまゐる。
日も山端にかけれんと
するほど、家に帰りがめ
庭をみれば、わがゆく時は
池の藤浪のやや長く垂て、
今五日・六日はかりも在ま
たば、などおもひつ出立
しを、其日頃経る迄はわす
れがて成しを、今見ればは
花の咲つらんとおほゆるさ
まもなく、下葉のやや色
付にける、わづか四月・五
月のほどに、春・秋とのう
ららへなる世のありさまは、
あまたの年経たらんやうに

なもおもはる。
されども家の内は、うか
らやからつひて、いとに
きびにしかば、かたみによ
るこびあへる。
いろせに見すとて
秋くれば草はみな
からつるへど
五背の君は
いやさかます
ちかきあたりの人など訪ひ
来る。盃とりあはして、更
行までうたひまふ。
浪風のおどろおどろしき
にはやうかはりて、うゑ
つばりの塵もちるばかりな
り。

藤田正兼大人云、吾うつ
せし本書におく書あり。
年号干支はなし。
と道ひろよしともに誰
人ともしらず。
奥書
これのふみは、此つくし
の国の殿に仕へ玉ふ、端
枝さす青柳主の宗像のお
きの嶋に防人にまかり玉
ひし時の日記なるを、さ
くら井の平川干淵の、こ
受てうつしり物せられ
しを、吾友とし道かの干
淵の子春に請うけて吾
にも見せつ。唯よみしま
まかくさんもちをしく

貝鐘の音の聞えず
皇神の国が
沖つしまかな
此歌種徳後平次郎
カ瀛津島三國下
テ味メルナリ



て、手あしきをかへり
みず、写しとりしに
横の園ひりよし 元押
嘉永四季春号之
小金丸種徳
貝鐘の音も聞えず
皇神の国が
沖つしまかな
此歌種徳後平次郎
カ瀛津島三國下
テ味メルナリ
完

今月号を以て津津宮防人
日記は完結しました。

神郡宗像 宗像大社末社めぐり

正面に真新しい拝殿があ
り、左右の狛犬も修理され
た跡が見え、平成六御造
営記念碑が樹間に輝いて
いる。
お守として子供用のぞう
りを青木の小枝に付けて
授与す。
一、例祭日 三月一日
以上

この例祭日に授与される
青木の小枝に小さな草履を
付けた「病氣平癒守」は地
元池田区の産子中による手
作りの「お守」で、大変有
名である。
宗像郡内にも一年の病氣
平癒と安全を祈り、この
「お守」を祀る風習が今も
ある。



筑前熊土記や
同拾遺 又太宰官
内志等にもこの孔
大寺山や当社の関
係由緒が多く記さ
れていて、往昔よ
り信仰厚き霊峰で
あり、修験道の霊山
として「雁門山の
修験者」は此の山を
胎藏界に比し、葛
城山と云。国峯の
行場なり」と記
されている様に、
千手観音堂を始め
れに由来する地名等が多く
残っている。
又、宗像大宮司との関係
も深く、氏眞の奉斎状を始
め多くの神宝が奉納されて
いる。さらに小早川隆景の
状もあり、
宗像大寺御祭禮之御久
米打餅自正到齋候儀
尚桂宮内可申候儀
二月二十日 隆景判
宗像社御中
この様に記されている。氏子
に守られている社でもある。